

地球環境とともに

持続可能な地球環境の構築に寄与することが私たちの使命であると考えています。

環境保全への取り組み

環境に対する考え方

持続可能な地球環境の実現のために当社が最も寄与できることは、環境負荷の少ない建築設備の提供であり、そのためにもお客さまへの提案活動を推進しています。また、当社の事業活動に伴う環境負荷の低減を継続すること、および社員ならびに関係者が環境に対する意識を高めることも不可欠です。オフィスでの省エネ、省資源をさらに進めること、および施工活動における省エネ、省資源に取り組んでいます。

また、地球温暖化に影響するフロンをはじめ有害物質の漏洩防止や適正な廃棄物管理は、施工する設備、自社の施設ともに確実に行うことが必要です。そのためにも環境法令の順守を徹底しています。

環境マネジメントシステム 2016年度環境目標・活動結果 2017年度 環境目標

活動内容と担当部門		主な目標又は監視項目	2016年度目標	2016年度達成値	判定	2017年度目標
提案、計画、設計	営業部門	自社開発技術等の提案採用件数	70件以上	66件	△	70件以上
	設計部門	設計提案によるCO ₂ 削減量	45,000ton以上	30,294ton	△	40,000ton以上
		採用されたCO ₂ 削減量	20,000ton以上	14,757ton	△	20,000ton以上
施 工	施工部門	エネルギー使用量CO ₂ 換算	—	976ton	—	—
		グリーン購入の推進	40%以上	43.4%	○	45%以上
	購買部門	産業廃棄物の分別推進 作業所での分別数	3.5以上/作業所	3.3/作業所	△	3.5以上/作業所
		リサイクルの推進 リサイクル額	60,000千円以上	60,154千円	○	60,000千円以上
オフィス活動	全 社 員	ドレン管の保温レス化	95,000m以上	77,329m	△	95,000m以上
		エネルギー使用量CO ₂ 換算	1,600ton以下	1,732ton	△	1,600ton以下
		水使用量	—	13,944m ³	—	—
		コピー用紙使用量	58ton以下	59.6ton	△	58ton以下
		ハイブリッド車等 次世代自動車の導入	60%	67%	○	70%
一般廃棄物分別率の向上	—	58.4%	—	—		

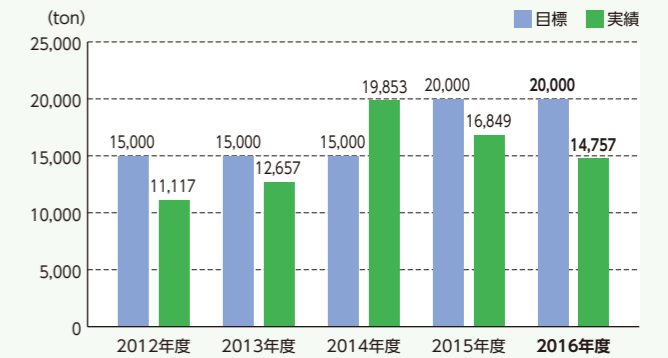
省エネルギー提案の取り組み

設計段階において、当社開発技術を中心に、お客さまへの省エネルギー提案を積極的に行い、CO₂削減に努めています。2016年度に提案した削減総量は約30,294トン、お客さまに採用していただいた削減総量は約14,757トンでした。

設計提案によるCO₂削減量の目標と実績



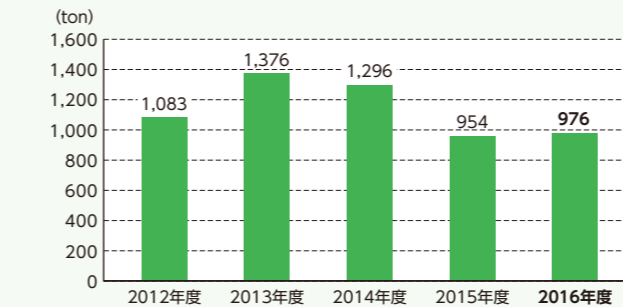
採用されたCO₂削減量の目標と実績



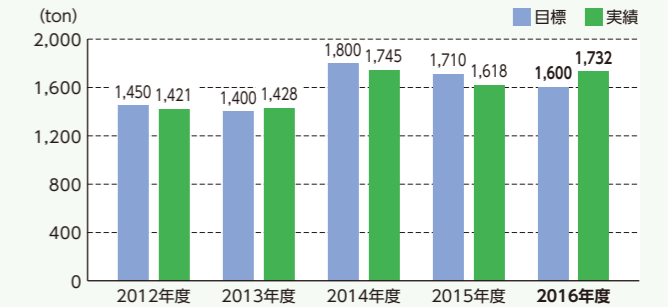
エネルギー使用量削減の取り組み

施工現場やオフィスにおいて、電気、ガスなどのエネルギー使用量の削減、コピー用紙使用量の削減などに取り組んでいます。2016年度の使用エネルギーをCO₂排出量に換算すると、施工現場からは976トン、オフィスからは1,732トンでした。

施工現場のCO₂排出量



オフィスCO₂排出量

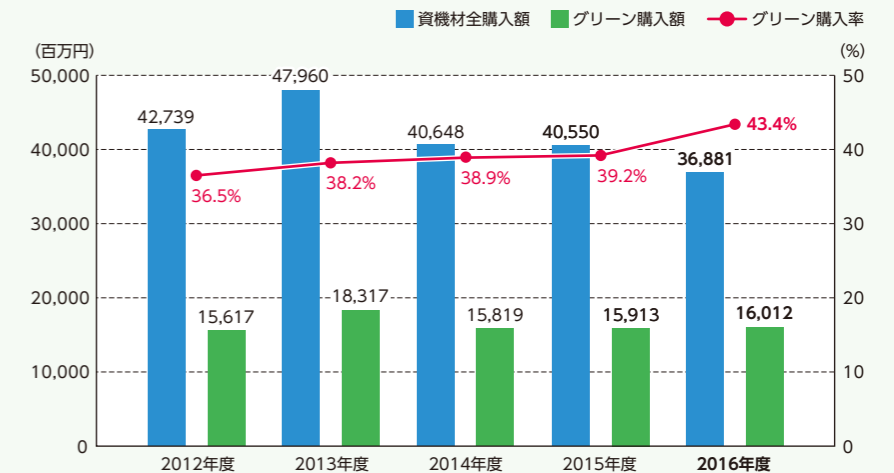


* 2014年度からCO₂換算値の見直しをしました。

グリーン購入の取り組み

当社は、「省エネルギー・高効率機器の採用」「エコ材料の採用」「長寿命化機材の採用」「低大気汚染機器の採用」「節水型器具などの採用」の5つの活動項目に対して、「グリーン購入対象品目」を定めており、お客さまに「グリーン購入」を提案しています。2016年度のグリーン購入率は、43.4%となりました。

グリーン購入実績

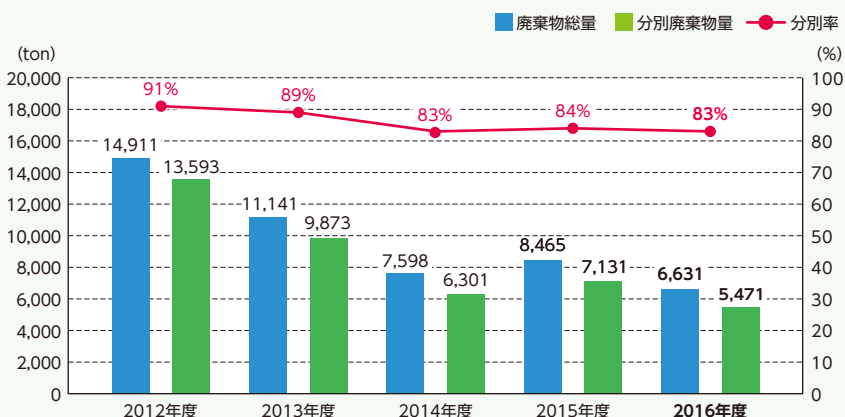


産業廃棄物の分別への取り組み

当社はすべての施工現場で廃棄物の分別を推進しています。2016年度に当社が排出者となった施工現場の産業廃棄物量は、約6,631トン、分別率は83%でした。

また、オフィスにおいても廃棄物抑制の啓発活動を行い、分別を推進しています。2016年度のオフィスからの一般廃棄物量は約103トン、分別率は58%でした。

■ 産業廃棄物の分別実績



ハイブリッド車等次世代自動車の導入

2012年度からハイブリッド車の導入を推進し、さらなる省資源、省エネルギーを目指しています。2016年度からはハイブリッド車および次世代自動車(PHV、EV、クリーンディーゼル等)の導入を目標とし、年度末での導入比率は67%となりました。2017年度は70%を目標としています。

環境負荷低減のための研究による貢献

超臨界CO₂による廃棄物量の削減

工場などで使用されたエアフィルタを超臨界CO₂を用いて再生する技術を開発・実用化し、廃棄物量の削減に貢献しています。

株式会社生活品質化学研究所(イオングループの検査機関)をはじめ、電子デバイスや食品等、さまざまな分野で採用いただいております。環境負荷低減技術として、お客さまや関連学会から高く評価されています。

* P28「超臨界CO₂によるエアフィルタ再生技術」を参照



国内最大規模の超臨界CO₂洗浄再生装置

ダクトサイズの適正化、薄板ダクトによる省資源化

ダクトの施工時に風量を再チェックし、無駄なダクトサイズの場合は、適正化を図ることで省資源化を進めています。

また、特殊な補強を施した鉄板を用いることによってダクトの板厚を1~3割薄くしたダクト「薄板ダクト」の採用により、さらなる省資源化を推進しています。

薄板ダクトの採用にあたっては、技術研究所においてダクトのリーク試験*だけでなく、強度、対振動性なども検証し、問題のないことを確認しています。

* リーク試験:ダクトの継ぎ目からの空気の漏れを確認する試験



薄板ダクトの性能評価試験状況